


浜田市議会
議長 濱松 三男 様

浜田市議会議員
三浦 一雄 

平成25年度政務活動費活用報告

第11回全国地方議員交流会に出席

日時 8月27日(火) 13:30から28日(水) 15:30まで

場所 神奈川県川崎市サンピアンかわさき1Fホール

参加者 全国の県議・区議・市町村議ら約150名

内容 (タイムスケジュール)

1日目 全体会議 13:30～開会あいさつ 原田章弘氏 (前横須賀市議)

問題提起 全国地方議員交流会実行委員会事務局長 加藤 毅 氏

講演 「辺野古への新基地建設反対は名護市民の総意」

講師 名護市長

稲嶺 進 氏

講演 「TPPは第3の不平等条約」

講師 前日本医師会会長

原中勝征 氏

特別報告 「原発事故状況他における本県漁業の現状」

報告者 福島県漁業協同組合連合会長

野崎 哲 氏

16:30 休会

2日目 分科会 9:15から13:00まで続投

「国と地方のねじれ TPP・原発・安保・防衛問題」に出席

14:00～全体会議・各分科会報告

決議要請案3件を採択・・・各省庁に提出

1. 福島原発の汚染水流出に対し、国主導での対策確立を求める要請書
2. TPPに関する国会決議等を遵守し、国民への情報開示と日本の国益を優先することを求める要請書
3. 米軍ヘリコプター墜落事故の抗議し、日米地位協定の抜本的改正を求める要請書

15:20～閉会あいさつ

15:30 閉会



第11回全国地方議員交流会

はじめに

8月23日夜からの激しいドシャ降りにより、24日朝方まで一睡もできず自宅周辺部の水害見回りに負われていました。自宅横の治山ダム本体堤体上層部から、過去に前例の無い雨量が示すように、浜田市東部に集中した豪雨は堤防の決壊により、床上浸水、山崩れ、生活道路・小河川の決壊等、甚大な被害報告を連日、現場と市役所を往来しながら、孤立世帯を一軒でも早く解消しようと一所懸命取り組んでいました。

そのような中で、事前に申し込んでいた第11回全国地方議員交流会の参加にためらいを持ちましたが、心を鬼にして川崎市に行って研修を受けました。私はこの交流会には始めて参加しましたが、もっと早く情報をキャッチしていればと反省したところです。とても解りやすい交流会でした。

この交流会は、現在の政治の問題点を素早く情勢分析し、全国の各議員が国と地方の矛盾を語り合う場としての会議であり、当然のように私は深く理解いたしたところです。私は特に、稲嶺進沖縄県名護市長の講演に注目して聴き入ってしまいました。浜田市内は平成6年頃から、米軍機による昼夜を問わずの低空飛行訓練に悩まされ続けている現状の背景には、山口県岩国基地離発着のハリアーやF A 1 8 ホーネット等が、我が物顔のように浜田市上空【エリア567】を飛行、爆音により民家のガラスが壊れ、認定こども園では園児が怖がって大泣きをするなど、住民の悩みは全く米軍側に届かない現状は、私達の想像をはるかに超える沖縄県民、特に、辺野古基地問題に揺れる名護市民の苦しみと怒りは想定外と察します。

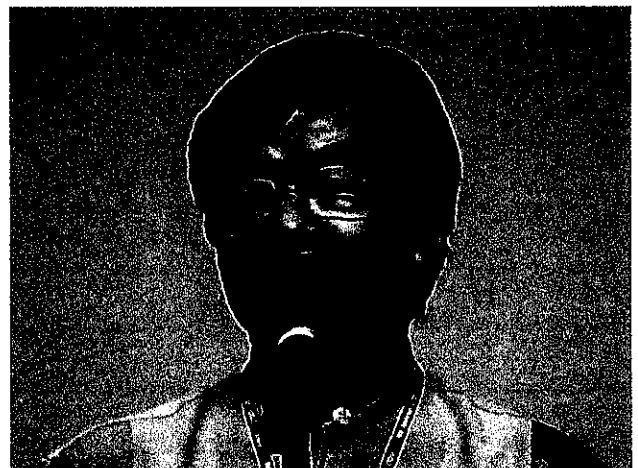
さらに、沖縄県の実態を把握するために稲嶺市長発言を注視したのです。

三人の講演内容

稲嶺 進 名護市長プロフィール

- 1945年（昭和20年）7月生まれ
- 1971年（昭和46年）琉球大学卒
- 1972年（昭和47年）名護市役所採用
- 2002年（平成14年）名護市収入役就任
- 2004年（平成16年）名護市教育長就任
- 2010年（平成22年）1月

辺野古への新基地建設反対を公約して名護市長選挙で初当選、2月市長就任（一期目）現在に至る。



稲嶺市長の講演は、研修内容を何一つ忘れることなく、帰省後も発言を思い出せるくらいの苦勞話と怒りを込めた鋭い講演に、私はスカッとした気分になりました。

最初に、「少女暴行事件および普天間返還合意以降の動きと米軍関連の事件・事故」を基に

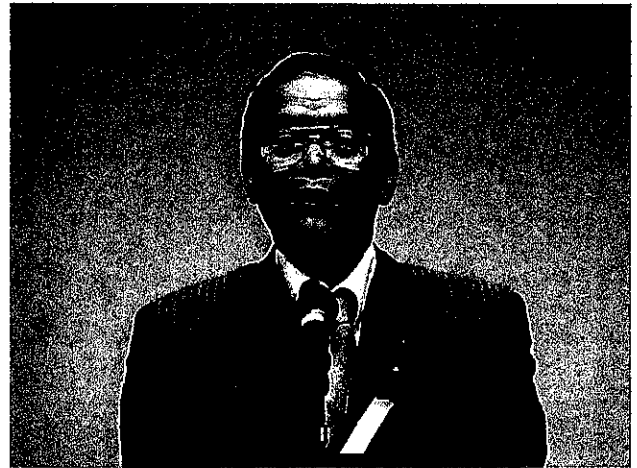
時系列に紹介されました。1995年（平成7年）9月【アメリカ兵3人による少女暴行事件が発生。これを契機に米軍基地に反対する運動や普天間飛行場の早期返還を要求する運動が起きる】以降、30件に及ぶ事案を資料とともに具体的に説明していただきました。

この中で稲嶺市長は、2009年（平成21年）8月【国政選挙において、鳩山民主党首（当時は内閣総理大臣）が普天間飛行場を最低でも県外】と発言したことに関し、『結果として、沖縄県民は喜びが失望に変わり怒りとなってきた。一度、返還・県外移設発言に対し、沖縄県民は一国の代表が発する言葉に喜んだ。しかし、米国圧力により【抑止力は方便だ】発言は県民を怒らせた。方便発言は許せない』と未だ感情が表れていたように思えました。

また、普天間飛行場代替施設の実態・沖縄の米軍基地の現状（0.6%の国土に74%の基地）・オスプレイ配備をはじめ、日本における米軍訓練空域（水域含め）・沖縄周辺の米軍訓練空域（水域含め）を、地図提示と資料を基に説明を受けました。

原中勝征 前日本医師会会長プロフィール

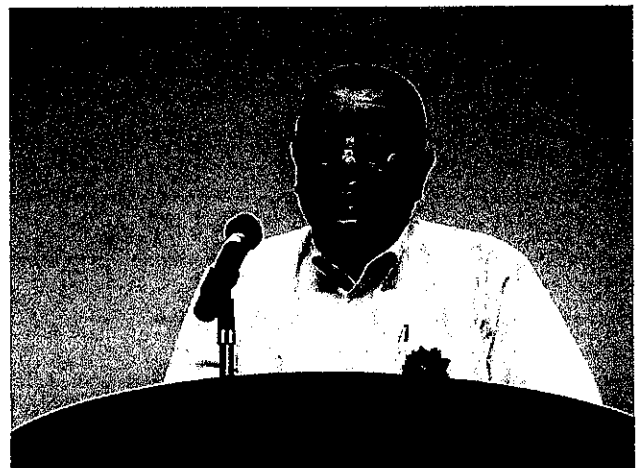
1940年（昭和15年）7月生まれ
1966年（昭和41年）日本大学医学部卒
1967年（昭和42年）東京大学医学部入局
1990年（平成2年）東京大学助教授
1991年（平成3年）医療法人杏仁会大圃
病院理事長・院長
2004年（平成16年）茨城県医師会長歴任
2010年（平成22年）から2年間
第18代日本医師会長
現在、TPPを考える国民会議 代表世話人として献身。



原中勝征前日本医師会会長の発言には、本当に驚きました。日本医師会会長と聞けば、偏見かも知れませんが、TPP問題については政府方針に沿っての発言だと勝手に思っていたのです。それが全く予想外だったのです。『国の政治はアメリカを向いています。TPP問題に対して、地方は反対している実態をどう考えるのか。国と地方のねじれ現象を議論すべきです。農林水産物33品目の関税を撤廃した場合、10兆5400億円減ります。農林水産業で146万人、関連産業を合わせて190万人の雇用が失われます。農業従事者は今後、営農できるか心配だ。耕作放棄地が増えるばかりで、飯が食っていけるかどうか』と具体例を挙げながら、熱弁されたことに感銘を受けました。

野崎 哲 福島県漁業協同組合連合会会長 プロフィールはありませんでした

今年7月の参議院選挙で自民党が圧勝しました。普天間移設問題・TPP参加問題・原発の再稼働問題を表面出して、闘った政党は少数だったと思います。これは私の個人的見解です。



野崎会長の特別報告も聴き入ってしまいました。先に【東京電力福島第一原発放射能汚染水管理の抜本対策の確立に関する要望】に組合員の気持ちが強く表れていますので明記します。

東京電力は、これまで放射能汚染水が海に漏出していないとしていたにもかかわらず、7月22日、一転して漏出していることを認めた。我々漁業者は原発事故発生以来、汚染水の海への漏出を絶対に起こさないよう、再三再四強く求めてきた。

しかしながら、我々が最も懸念していたこのような事態が判明したことは、全国の漁業者・国民に対する裏切り行為であり、極めて遺憾であるとともに強い怒りを抱くものである。

操業の再開を心待ちにしている地元漁業者の失望感は計り知れないものがあり、また全国の漁業者を苦しめている風評被害のさらなる広がりが懸念されるなど、漁業の将来に大きな影響を与えるものである。

国は、2011年12月に原発事故収束宣言を行ったが、海への漏出という事態が判明したことは、未だ汚染水の抜本対策が確立されていないことを明らかにしたものであり、およそ事故が収束したと言えるものではない。

このうえは、国は収束宣言を正式に撤回し、早急な原因究明を図るとともに、国主導で汚染水対策の道筋を示し、海への漏出を完全に防止する対策を直ちに講じることを強く求める。

2013年7月25日

全国漁業協同組合連合会

この要望書が、現在の実態なのです。野崎会長は、『原発事故以降、現在においても津波対策は全く執られていません。4mから6メートルの津波が来れば、また大きな被害となります。東京電力も国も信用できない。事故の現場で生きる我々にとって、放射能汚染水が今日は止まらなくても明日は止まるのではないかと毎日願いながら、不安な生活をしているのです』と報告され、海に生きる漁業者の悲痛な声を目の当たりに聞いたのです。

私も今回の第11回全国地方議員交流会に参加して、新聞上で知る範囲が限られていることに気付きました。

昨今のテレビ新聞報道によれば、政府が前面に立ち、総合的な汚染水対策費約500億円を投じるとありましたが、本当に解決に繋がるのか心配です。

二日目は分科会で安保・防衛問題に注目し、浜田市における米軍機低空飛行問題を発言しましたが、参加者からの事例発表は全く無く、この日の意気込みが薄れてしまいました。

最後に決議要請案を採択して、8月29日の午前中、経済産業省・原子力規制庁・内閣府・外務省・防衛省に要請書を提出されたとお聞きしました。

総 評

第11回全国地方議員交流会に参加して、本当に良かったと思っています。もっと早くこの会を知っていれば、違った磨きがあったかなと反省しております。「日本の政治を変えるため力を合わせましょう」のキャッチフレーズでしたが、今日の政治課題を指摘・解決に向けた議員同士の議論は正解だと思いました。

ただ、多くの課題を解決するためには省庁要請だけでなく、各政党や、さらに全国議長会に対し積極的に申し入れをすべきではないかと思いました。

以 上